

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 20日

事業所名 タートル

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	着替えのスペースや廊下などを有効利用するなど工夫して活動しています。	その日の利用人数によって部屋の活動内容を決めスペースの有効利用ができるように努めていく
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	職員配置、配置基準については、重要事項説明書に記載し、ご契約時にお伝えしております通り、法令に基づいた指定基準を遵守しております。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	スロープ・手すり等を設置しています	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	目標設定と振り返りは日々行い、業務改善に繋がっています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	目標設定と振り返りは日々行い、業務改善に繋がっています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		今後も自己評価表をもとに改善していくこと、保護者の方に分かりやすく改善内容を伝えていきたい
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	第三者委員会の設置をしています。	今後も外部評価を含めより良い意見が頂けるように改善していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	半年に一回の研修を実施し、外部の研修へも参加しています。	コロナ禍で社外研修の機会が減ってはいたので、社外研修に積極的に参加していきたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題をもとに支援計画を作成しています。	定期的にあセスメントの更新を行うこと、保護者に対する説明を今後も行っていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	アセスメントツールを使用して、適応行動の状況を把握している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	職員が交代で週の立案を行い意見交換をしながらその日の活動プログラムをきめている	職員会議等で新しい取り組みを話し合う機会を増やしていきたい
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	立案者が固定しないようにすることで、様々な活動プログラムになるよう工夫しています。	職員会議等で新しい取り組みを話し合う機会を増やしていきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別活動での支援目標の作成はもちろん、地域に移行していく中で集団活動での目標を設定し支援計画を作成しています	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝礼時に打ち合わせ、役割分担の確認をしている。	天候、利用状況によって支援内容が変更となる場合にも対応できるようにしていく
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	送迎時の申し送り等の報告をし、その日の振り返りをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	実績記録をとることの徹底、日々ミーティングの実施をしている。	実績記録は全職員、必ず目を通すよう心掛ける
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	定期的にモニタリングの実施、見直しをし、判断している。		

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	支援学校とは連絡会やFAX等で情報共有ができています	地域の小学校は保護者を通しての連絡となることが多く、連絡調整が難しいときがあるので積極的に情報共有を行っていきたい
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	申し送り書、電話での聞き取り等で情報提供し、相互理解に努めている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	申し送り書の作成や電話での情報共有を行っています	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	発達支援センターで年に数回ではあるが研修を受けています	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		今の所、参加する機会がなく、今後は機会を見つけ参加したいです
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時や連絡帳などでその日の様子を伝え、今後の課題について話す機会を設けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	60%	40%	事業所での取り組み方や成功例を伝え、ご家庭での支援の参考となるよう努めています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明させて頂いています	不明な点があれば再度、説明を行っていきます
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	定期的に懇談を行い、それに加え適宜相談に応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	懇談時に父母会について話す機会を設けている	保護者の意見を伺い必要に応じて開催していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談窓口を設けています	今後も保護者、子どもからの相談に迅速かつ適切に対応できるようにしていきたい
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	0%	60%	行事予定、活動内容等は随時、書面で保護者の方にお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の提供に係る同意書を作成し保護者同意の上情報の取り扱いを行っている	他機関との連携、情報共有時には必ず保護者の同意を得ることを今後も注意していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	他国籍の方には連絡帳やお便りをルビ表示や平仮名で対応している	児童との意思疎通は今後も様々な方法で行っていきたい
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		今後、検討していきます。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	懇談時に避難所の確認やマニュアルの周知を行っている	職員に対しての訓練強化を実施していく
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	月に一回、避難訓練をしている。	非常時の職員の役割を確認し迅速に行動できるよう訓練を行う	

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止研修の資料を基に社内研修の実施を行っている	マニュアルの策定、周知、研修へ参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	懇談や送迎時に身体拘束について話し合う機会を増やしていく	懇談時に説明はさせて頂いていますが児童発達支援計画書にも今後記載していきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		現在食物アレルギーのある子どもの利用はないが、保護者を通して医師の指示書に基づく対応をしています
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	会議で話し合いの場を設け改善点を話し合っている	事例の大小に関わらず作成の有無を確認し作成を行っていきたい